



運を生かした時代の世界を風靡した外交の栄華、その歴史を今も残した人口16万人の国際観光都市、年間2,000万人も訪れる地域産業育成のを見本を見た。

三つ目の訪問地パリは東京山手線の内側ほどの面積の首都だが、一方中小自治体の運営改革に直面しているフランスでもある。

パリ市南東90kmにあるフランス広域行政組織「市町村共同体」が成立するまでの苦難の道のりと地域運営についてを視察した。

最終地はEUの一大金融都市となったフランクフルト市、戦後復興期の労働力不足時代に迎えた多くの外国人労働者が高齢域に達したドイツで、福祉に対する負担と支援の実態を、福祉協会施設、諸文化高齢者支援センターで見聞した。

以上、4都市それぞれの研修目的を持って学び、市の将来づくりに活かしたい。



欧州で視察研修する団員

充実した高齢者の施設福祉

(オーストラリア)

団長 弥吉治一郎
副団長 水町 好

高齢者福祉のあり方をテーマに豪州の施設福祉の現場を視察した。シドニー郊外にあるナーシングホーム(養護施設)やホステル(老健施設)などを訪ねた。広々とした敷地は40ha、このなかに3施設が運営されていた。

高齢者の介護度は8段階

に区分され、介護度の高い人が暮らすのが「ナーシングホーム」である。食事介護など身の回りの世話が受けられるほか、看護師や理学・作業療法士が常駐しており、運動機能の維持回復に力が入られている。医療も24時間提供されている。

「ホステル」は自宅での日常生活が困難となった介護度の低い高齢者のための施設である。個室が基本で6畳程の居間とキッチン・シャワールームがセットされている。ベランダも付けられ、ここでは入所者がお茶を囲み楽しく談笑していた。

このような施設への入所費用は支給する年金の額に関係なく全額が施設に納められ、このうち15%が日用品費として返される。医療費は無料である。我が国の施設と比べると居室もゆつたりしたスペースが確保され、リハビリなど身体機能の維持に力点が置かれている。高



豪州を視察 (平成17年2月5日~12日)

齢者は社会に貢献された人と認識され、人間としての尊厳が大切にされている。このため入所者の手や足をベッドに縛りつけ自由を奪うようなことは一切無いとのこと。高齢者の福祉のあり方を考えさせられる研修であった。

議会運営委員会 行政視察報告

2月14日から16日にかけて千葉県鎌ヶ谷市及び東京都武蔵野市へ行政視察を行った。

視察内容は、

- ① 予算・決算特別委員会の運営状況と立ち上げについて
- ② 全員協議会の運営方法(公開・非公開など)
- ③ 議会における情報公開状況
- ④ 請願・陳情の取り扱い状況

についてである。

鎌ヶ谷市では、予算・決算特別委員会は、3月定例会で予算特別委員会を設置、9月定例会で決算特別委員会を設置し閉会中の継続審査で12月採決する。なお委員は各会派より人数割りで選出される。

全員協議会は、全員で協議が必要な場合に開催されるが、議会に諮って公開する以外は原則非公開とされている。議会だよりは、新聞折込で全戸配布され、会議録をホームページで公開し、

全世界帯にインターネットで流すことを検討中である。請願・陳情は筑後市と同様の取り扱いであった。

武蔵野市では、予算・決算特別委員会は、3月定例会で予算特別委員会を設置、9月定例会で決算特別委員会を設置し会期中に審査、採決される。委員は各会派より議員数の比率により選出される。

全員協議会は原則公開であり、情報公開として議会報、ホームページ、インターネット中継、ケーブルテレビ、コミュニティFM等により公表されている。



鎌ヶ谷市役所で視察研修